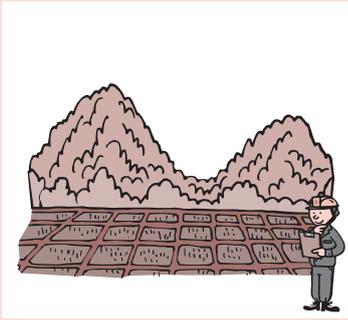


測定ポイント⑤



埋め立て後も継続して、埋め立て処分場周辺への進出水などの放射線量を測定します。

震災がれき広域処理の流れ (国が示すモデル)

広域で処理する震災がれきは、処理の各段階で放射能濃度などを機器で測定し、健康に影響を及ぼさないという安全性が確認されたものだけが対象となります。



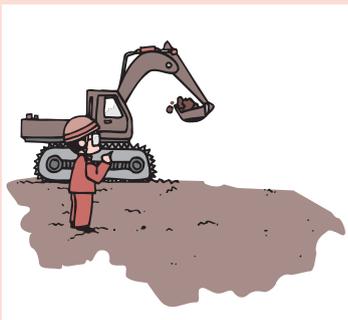
▲放射線測定器 (例)

測定ポイント①



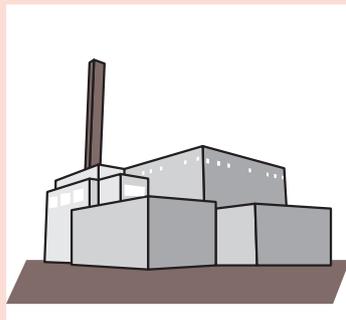
被災地にある震災がれきの仮置き場で、放射能濃度を測定します。

測定ポイント④



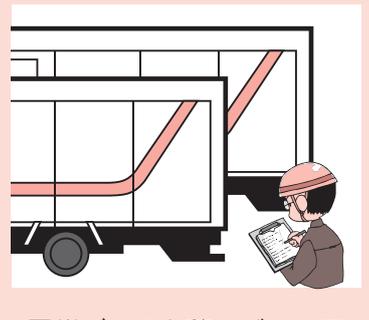
震災がれきの焼却灰の埋め立て前に、放射能濃度を測定します。

測定ポイント③



受け入れ自治体で、震災がれきを焼却するとき発生する焼却灰の放射能濃度を測定します。

測定ポイント②

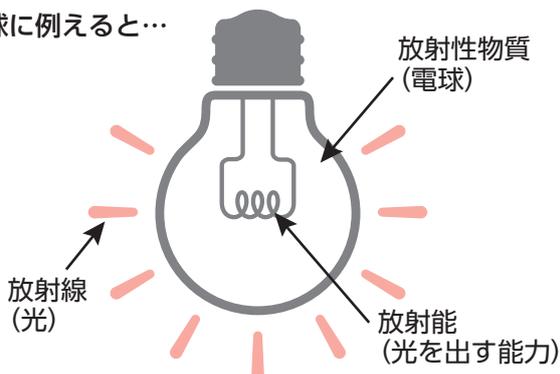


震災がれきを積んだコンテナの被災地出発時と受け入れ自治体到着時に、コンテナから1ヵ所地点での空間放射線量を測定します。

放射線の疑問

Q1 放射線と放射能ってどう違うの？

電球に例えると…



ベクレルは放射性物質が放射線を出す能力を表す単位
シーベルトは放射線が人へ及ぼす影響の度合いを表す単位

Q2 人体にどんな影響があるの？

放射線は、見えない針のように、生物のDNA（遺伝子）を傷つけます。

多くの放射線を浴びると、傷ついたDNAの修復が追いつかず、その体にさまざまな影響を及ぼすことがあります。

それらの影響を『放射線障害』といい、一度に大量の放射線を浴びる『外部被ばく』と大量の放射性物質を摂取する『内部被ばく』があります。

放射線障害は、白血球の減少や脱毛、がんなど、被ばくした本人の身体だけではなく、遺伝子の損傷や突然変異など、その子孫の身体にも影響を及ぼすことがあります。



東日本大震災で発生したのがれきの広域処理の考え方についてお知らせします